

## 歴代会長 お互いさまの町へ60年

初代	飯田 富士	1956-6か月	七代	野上 和夫	1982-10年
二代	福川 辰之丞	1957-1年	八代	加藤 京一	1992-4年
三代	田村 由三	1958-3年	九代	佐藤 謹吾	1996-6年
四代	阿佐 基一	1961-10年	十代	荒井 良成	2002-6年
五代	土屋 茂	1971-8年	十一代	渋谷 昇	2008-4年
六代	川井 勝重	1979-3年	十二代	山本 隆良	2012-現在

## 町会のあゆみ

1956年新山通一丁目町会は飯田富士氏を町会長に選出し再生する。1952年町会復活の声から4年の歳月と在任6か月の謎を秘めた新生町会は、同年町民館を新築する。東京五輪前の好景気と、都心へ近い地の利に商店等の住環境を整えながら日々変貌した。町会と商店会は車の両輪で町の活性化に努め町会員は820世帯に及ぶ。1972年町民館を木造2階建に改築する。1984年町民館敷地の購入寄付事業を展開する。1992年町民館は地方自治法の規定する地縁団体の認可を受け、新山通町会事務所となる。1995年被災の悲運に遭うも翌96年再建を果たす。(地下1階地上2階鉄筋コンクリート造)不況を目前に資金調達に奔走した先人の苦労が町会活動の起点として現存する。当然ながら町会長は商店会有力者が務めた。商店会の盛況は町会の活性化を助長したがバブルの混乱は大店の主、企業経営者に及び商店会は活力を失い町会は大きな転機を迎える。

## 十年を立ち返って2016年

試練は住人の手に委ねられた。活動を支えたのは女性役員の女子力、女性の助力なしに活動の継続が難しいのは今も昔も変わらないが時の要請に応えた。しがらみのない町会員の活動参加が町会を変える事となる。役員会の資料作成、口述から文書伝達、座布団から椅子へ歴代町会長名を掲額する。自慢の伝統行事夜警は、まずは一杯の儀式もまずは一回りに、防犯、P団活動、歳末警戒も実利を優先する。テント内啓発に街頭誘導にも取り組んだ交通部、防災部のスタンドパイプ操法訓練、町会加入促進活動と行事を重ねる青少年部、事業部活動の見直しを推進する婦人部、内部改革を求める声に、2015年町会規約を改正し活動方針を再確認する。2016年創立60周年の慶事を祝い新山神輿を新造し記念事業賛同者を顕彰し掲額する。区の加入促進助成、区町連の加入促進支援は町会と区の関係を明確にした。とはいえ1240世帯が住む町の会員数は50%に満たない(戸建342集合167)のが現実だ。

## これからの町会

活動への疑念、奉仕の限界、見守り支え合いへのジレンマを抱えながら篤志の館、新山神輿、お互いさまの町を守り伝えたい。町会の使命は、この地に住いし人、嫁ぎし人、生まれ育った人、里人の郷を守ること、先人の志を次世代へつなぐこと。時世を越えて感謝と奉仕の心は不変でありたい。戦後の世代がやっと生まれた町に帰ってきた。土地っ子の町会づくりが間もなく動き出す。

図らずも、本誌に町の過去に思いを致す機会を得た事は有難い。区町連が辿った60年が、我々の明るい未来へ架け橋になることを願っている。創立60周年に敬意を表するとともに、更なる飛躍を期待している。

